対になった2つの要素で見る5つの観点（自由・制限など）

歴史の中の課題を、対になった2つの要素の両方から見ると、何が見えてくるか

左の皿：1つめの要素	観点（天秤）	右の皿：2つめの要素	皿の例から立てる問い（例）
自由 自由な貿易を求める（自由貿易を支持する人々）	1 **自由・制限** 例：19世紀中ごろの貿易	**制限** 輸入を制限し、国内の産業を守る（保護貿易を支持する人々）	貿易を巡る問題が、なぜ国論を二分したり戦争へ発展したりするのか
平等 格差のある所で、平等を実現しようとする思想や行動が生まれる	2 **平等・格差** 例：産業革命と工業化	**格差** 都市と農村、国と国の間などで、経済的な格差が広がる	産業革命に始まる工業化は、人々に何をもたらしたのか
開発 工場や鉄道が増え、生産と輸送が大きく伸びる	3 **開発・保全** 例：工業化と環境	**保全** 川の汚れや森林の破壊が起き、対策が試みられる	19世紀に生じた環境の問題に、どんな対策が試みられ、どんな限界があったのか
統合 国民としてまとまる動きが強まる（国民意識の高まり）	4 **統合・分化** 例：合衆国の国民国家化	**分化** 市民権の要件などで、移民や先住民が国民の枠から外されることも	南北戦争は、アメリカ合衆国の国民国家化にどんな意味をもったのか
対立 開国などをめぐり、幕府と倒幕の勢力の間で大きな対立が起きる	5 **対立・協調** 例：日本の近代化	**協調** 幕府と倒幕の勢力が、列強の接近への危機感を共有していた	日本の近代化に大きな対立があったのに、なぜ急速に国民国家の形成へ向かったのか

天秤はどれも水平：2つの要素は一体の枠組み。
どちらか一方の要素だけに注目しない。

→ 同じ5つの観点を、C(4)「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」でも使い、D(4)の探究に生かす

※ 皿の例と問いは、学習指導要領解説に挙がる例をもとにした一例。ほかの事柄でも主題を立てられる。